



牛込濠（飯田橋方面）の桜

清友

No. 44

2013年4月

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

再建5周年記念 第6回定期総会 5月24日開催

第6回定期総会

- 〈日時〉 5月24日（金）
午前10時受付
- 〈場所〉 SKホール
（清掃会館地下）
- 〈議案〉 ①活動方針（案）
②会計予算（案）
③旅費改正（案）
④役員選出要綱案

5周年記念懇親会

- 〈日時〉 5月24日（金）
12時30分
（総会終了後）
- 〈場所〉 SKホール

特別の予算を組んでい
るわけではありませ
るので、ささやかなもの
になります。出欠の連絡は返信用
はがきにより、4月25
日までにお願ひします。
なお、参加できない
方は委任状の提出をお
願ひします。委任状は
返信用はがきに印刷し
てあります。

第6回定期総会は、既にお知らせしたように5月24日です。今年の総会は再建から5周年の

節目です。これを記念して、総会終了後の懇親会は「再建5周年記念懇親会」と銘打ち開催します。

今年も4月27日に中央メーデー、5月1日に日比谷メーデーが開催されます。東京清掃は例年同様、日比谷メーデー中心に対応する予定です。退職者会も日比谷メーデーに全力で臨みます。

中央メーデーは、明治公園で東京地公労の事前集会・デモが行われます。幹事中心に代表参加で対応します。5月1日の日比谷メーデーは今年も退職者会の隊列を組みます。都労連はメーデー職

実態は定数が大幅に削減されて余裕が全くなくなっていきます。そのため、作業日の1日行動は非常に厳しいものがあります。全日制市民である退職者会の出番です。是非ふるって参加ください。

日比谷メーデーに
参加しましょう

免を廃止され、都庁関係労組は厳しい状況にあり、従来に増して東京清掃に期待が高まっています。しかし、東京清掃の職場

東京清掃退職者送別会

「組合があつて本当によかつた」と参加者

東京清掃主催の退職者送別会が3月15日、SKホールで開催されました。

開催時期が遅くなったことも影響してか、参加者は少数でしたが、加入届提出者5名を含む退職者、支部の引率者、中執、青年部、退職者会など約40名が集まりました。

坂本組織部長の司会で始まり、吉田委員長の代理として山崎副委員長がねぎらいの詞を述べ、北條会長が東京清掃の歴史を踏まえて退職者会加入呼びかけの挨拶、庄司事務局長が退職者会の活動内容等を紹介するガイダンスを行いました。瀨瀨副委員長の音頭による乾杯に続き懇親会に入り、和やかさを増したところで参加した退職者全員から想い出を話していただきました。「組合があつて本当によかつた」という退職者の謝辞は実感がこもり、参加者一同思わ

ずうなずいしていました。名残を惜しみつつ、大和田副委員長が閉会の挨拶。今年度の退職者送別会も、楽しい会になりました。



政権交代により高齢者福祉後退の危機

3・11～12 東京都退職者協議会学習会

3月11日～12日、都労連の退職者対応組織・東京都退職者協議会(都退協)の学習会が、「市町村共済保養所シーサイドいずたが」で開催されました。

1日目は「アベノミクスと中国問題」の講演。無規律な貨幣供給が危うさをもつアベノミクスは、「新自由主義」というよりむしろ「新国家主義」、日中関係の改善は憲法9条を

守るためにも不可欠などのお話は目からウロコでした。

2日目は、川端自治退事務局長による「年金、社会保障制度に対する取組み」の報告。政権交代により、高齢者福祉後退の危機に直面しています。東京清掃退職者会も、後期高齢者医療制度廃止や、夏の参議院選などの課題へ向け、頑張りたいと思います。

福祉後退阻止のため参議院選勝利を

3・19 退職者連合衆議院会館内集会

3月19日、退職者連合は、「後期高齢者医療制度廃止・社会保障充実・参議院選勝利へ向けた衆議院議員会館内集会(院内集会)」をもちました。

後期高齢者医療制度廃止は民主党政権との確認事項でしたが、安倍政権は「社会保障・税一体改革」の継続事項中、共通番号制度だけつまみ食いしようとしています。

新自由主義経済以降、企業

は太り、労働者の賃金は下がりが続き、社会福祉も後退しています。この流れを食い止めるため、退職者連合は、今後民主党中心に野党と連携し、充実した社会保障制度を目指すこと、あわせて、脱原発運動を推進することを確認しました。そして、夏の参議院選勝利へ頑張る決意を固めました。

東京清掃「当面の課題」

国公給与臨時削減の地公への波及阻止、高齢期雇用制度確立、事業関連統一交渉の前進

東京清掃染書記長にインタビュー

東京清掃の主な年間の闘いは、①賃金確定、②予算要求、③作業計画ですが、今年は何れもと様相が違うようです。

東京清掃の当面の課題について、染書記長にうかがいました。

給与臨時削減問題

自公政権は、大震災の復興予算捻出を目的に実施している国家公務員の平均7.8%給与臨時削減を、地方も実施すべきと迫っています。「地方には波及させない」とした民主党政権との約束を反故にする暴挙です。

自治労は4月26日にストを構えて断固阻止の闘いに入りました。東京清掃は高批准で

確立した春闘のスト権を背景に、臨戦態勢で臨む準備をしているとのこと。

高齢期雇用制度

今年度から年金支給年齢が順次引上げられ、定年退職と連動しなくなります。

この無年金期間に対応する高齢期雇用制度について、国は定年延長ではなく「再任用の義務化」を決めました。制度設計は遅々として進んでいません。

高齢組合員の生活に直結するだけでなく、作業計画や人員配置にも大きな影響をもたらすだけに、確定期前の最重要課題として取組みを進めたいとの決意をうかがいました。

事業執行統一交渉

清掃事業の特別区移管により、事業に関わる労使交渉は各区事項とされ、ごみ分別基準や車両架装など事業の基本的事項も東京清掃本部が23区当局と直接交渉する構造にはなっています。

東京清掃は、①年間作業日、②作業計画の基本事項、③年末始作業日を各区と個別に交渉し、その結果を踏まえて各区交渉に移す仕組みにより、歯止めをかけていますが、変則的な対応であることに変わりはありません。

今、統一交渉実現への足掛かりにするため、現場の声を反映できる「実質的な協議の場」の確保を模索しているとのこと。



インタビューに答える東京清掃・染書記長

退職者会活動日誌

*2月21日の第5回幹事会以降3月15日の第12回三役会までの活動記録。
▼2月21日の幹事会終了後、企画・旅行部会合同会議。13年度年間活動計画案、落語鑑賞会の総括、親睦旅行の構想を検討しました。
▼3月9日、「つながらろうフクシマ! さようなら原発大集会」が明治公園で開催され9名参加。代々木公園まで元気にデモ行進しました。
▼3月10日、「原発ゼロ大行動」(日比谷野音で集会、国会請願デモと国会・首相官邸前等で抗議集会)、11日、大井町「きゅりあん」で「つながらろうフクシマ! さようなら原発講演会」。両日とも自主参加としました。戸枝会計が参加。その他の参加者は把握できていません。
▼3月11日(12日に、都退協学習会が開催され、庄司事務局長が参加。内容は別記のとおりです。
▼3月15日に第12回三役会。総会議案や会員拡大対策等を検討しました。
▼事務局会議・事務業務は3回。主な課題は、当面の行動企画、東京清掃退職者送別会準備、会員拡大対策、機関紙等定例連絡発送でした。

脱原発の流れを止めるな！

国内外で脱原発連続行動



3.9 つながろうフクシマ!
さようなら原発大集会・会場



3.10 原発ゼロ☆大行動・国会請願デモ



3.11 つながろうフクシマ! さようなら原発講演会
坂本龍一さんと後藤正文さんの対談



3.24 原発のない福島を! 県民大集会・会場

3・9 「つながろうフクシマ! さようなら原発大集会」に1万5千人

福島第一原発事故から2年。3月9日から11日、脱原発の流れを止めないことを目指す連続行動が取られました。

9日に明治公園で開かれた「つながろうフクシマ! さようなら原発大集会」は、「フクシマを忘れるな」のキーワードの下、1万5千人が結集。「子どもの甲状腺がん。被ばく労働者。地域が汚染され、人間の命すべてが奪われても、人間の命より経済が大事だという人々がいる。そんな政治家は認めない。」という鎌田慧さんの挨拶は印象的でした。

ますます強まり広がる怒り、3・10 「原発ゼロ☆大行動」に4万人

10日は反原発が呼びかけた「原発ゼロ☆大行動」。日比谷公園で集会後国会請願デモ、原発関連省庁8ヶ所の抗議・国会正門前大集会などに合わせて約4万人が参加しました。

参加者の年齢層は幅広く、高齢者から若者まで広がりを見せ、特に小さな子ども連れファミリー参加が目立ちました。公園内外に人があふれ、脱原発を求める人々の声は、2年経つても衰えるどころか、ますます強まり広がっていることが示されました。元氣の出る集会と行動でした。

3・11 「つながろうフクシマ! さようなら原発講演会」は大盛況

11日に品川区立総合区民会館「きゅりあん」で開かれた「つながろうフクシマ! さようなら原発講演会」は、坂本龍一さんと人気バンド「アジア・カンフー・ジェネレーション」後藤正文さんの対談などがあり、「3・11を原発はいらないと決意をする日」にすることを確認しました。

海外でも「フクシマを繰り返すな!」と大規模デモ

フランスやドイツ、台湾、アメリカ等で「フクシマを繰り返すな!」と最大数万人規模のデモが行われました。

3・24 「原発のない福島を! 県民大集会」で「県内原発全廃炉」を宣言

3月23日、福島市のあづま総合体育館で「原発のない福島を! 県民大集会」が開催され、県内外から約7千人が参加しました。

呼びかけ人を代表して清水修二・福島大教授は「県内の原発を再び動かすという選択肢はない。」と発言。農業・漁業者、高校生、林業者、観光業者、県外避難中の母親らによる被災の現状などの訴えがあり、原発依存からの脱却、県内原発の全基廃炉などを国や東電に求める集会宣言を採択しました。